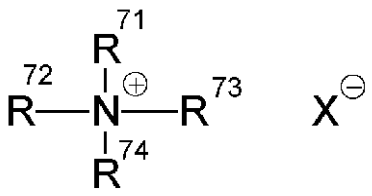
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【公表番号】特表2007-522226(P2007-522226A)
【公表日】平成19年8月9日(2007.8.9)
【年通号数】公開・登録公報2007-030
【出願番号】特願2006-553224(P2006-553224)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/896　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/89　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/41　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　5/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　8/896
Ａ６１Ｋ　8/89
Ａ６１Ｋ　8/41
Ａ６１Ｑ　5/12

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年9月17日(2009.9.17)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（ａ）
（ｉ）不揮発性で、アミノ基を実質的に含まず、１００，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$～３０，０００，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$の粘度を有する第１シリコーン；
（ｉｉ）不揮発性で、アミノ基を実質的に含まず、５$mm^2 \cdot s^{-1}$～１０，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$の粘度を有する第２シリコーン；及び
（ｉｉｉ）１００$mm^2 \cdot s^{-1}$～５０，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$の粘度を有するアミノシリコーンである第３シリコーン
を含み、シリコーンの予め形成されたエマルジョンを除く、０．１重量％～２０重量％のシリコーン系
（ｂ）
（ｉ）以下の一般式：
【化１】



（Ｉ）

（式中、R^{71}、R^{72}、R^{73}及びR^{74}のうち１つは、炭素原子数１６～３０の脂肪族基、又は、炭素原子数３０までの、芳香族基、アルコキシ基、ポリオキシアルキレン基、アルキルアミド基、ヒドロキシアルキル基、アリール基もしくはアルキルアリール基から選択さ

れ；残りのR^{71}、R^{72}、R^{73}及びR^{74}は独立して、炭素原子数１～８の脂肪族基、又は、炭素原子数８までの、芳香族基、アルコキシ基、ポリオキシアルキレン基、アルキルアミド基、ヒドロキシアルキル基、アリール基もしくはアルキルアリール基から選択され；並びにX^-は、塩形成アニオンである）を有する０．１重量％～１０重量％のカチオン性界面活性剤；

（ｉｉ）０．１重量％～２０重量％の高融点脂肪化合物；及び

（ｉｉｉ）水性キャリア

を含むゲルマトリックス

を含み：

（ｃ）前記第１、第２及び第３シリコーンを混合して、前記シリコーン系を形成させる工程；及び

（ｄ）前記シリコーン系を前記ゲルマトリックスと混合する工程

を含む方法によって調製される、ヘアコンディショニング組成物。

【請求項２】

前記第１及び第２シリコーンが、前記第１シリコーンと前記第２シリコーンとの重量比が１：１～１：１０となるような濃度で含有される、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項３】

前記第１、第２及び第３シリコーンが、前記第３シリコーンと前記第１及び第２シリコーンの合計との重量比が１：１～１：２０となるような濃度で含有される、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項４】

前記シリコーン系の粘度が５００$mm^2 \cdot s^{-1}$～１００，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$である、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

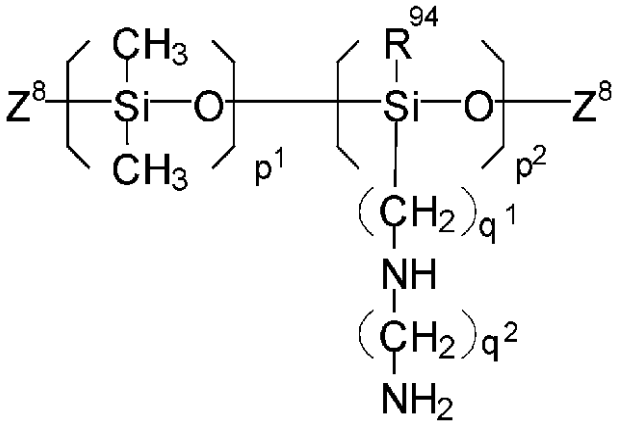
【請求項５】

前記シリコーン系の粘度が１，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$～３０，０００$mm^2 \cdot s^{-1}$である、請求項４に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項６】

前記アミノシリコーンが以下の一般式：

【化２】



（式中、R^{94}がＨ、CH_3、ＯＨ、又は炭素原子数１～３のアルコキシであり；p^1が１又はそれ以上の整数であり；p^2が１又はそれ以上の整数であり；p^1およびp^2の和は２～１，５００であり；並びにq^1及びq^2は独立して、１～１０までの整数であり；Z^8基は独立して、ヒドロキシ、メチル、アルコキシ及びアリールオキシであって、前記アルコキシ及びアリールオキシ基は独立して炭素原子数１～２０であるものである）を有する、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項７】

R^{94}がCH_3であり；p^1が１００～１，０００までの整数であり；p^2が１～１０まで

の整数であり；p^1およびp^2の和は１００～１，０００であり；並びにZ^8基が独立して、ヒドロキシ又は炭素原子数１～３のアルコキシである、請求項６に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項８】

前記カチオン性界面活性剤が、ベヘニルトリメチルアンモニウムの塩である、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

【請求項９】

前記カチオン性界面活性剤及び前記高融点脂肪化合物が、前記カチオン性界面活性剤と前記高融点脂肪化合物とのモル比が１：２～１：６までの範囲であるような濃度で含有される、請求項１に記載のヘアコンディショニング組成物。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０００４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０００４】

毛髪の状態を整えるために様々な取り組みが開発されてきた。毛髪にコンディショニング効果を与える一般的な方法は、カチオン性界面活性剤とポリマー高融点脂肪化合物、低融点の油類、シリコーン化合物、及びこれらの混合物のようなヘアコンディショニング剤を使用することによるものである。これらコンディショニング剤のほとんどは、毛髪に付着することによってコンディショニング効果を与えることが知られている。例えば、シリコーン化合物は、毛髪に付着することによって、毛髪に滑らかな感触などのコンディショニング効果を与えることが知られている。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

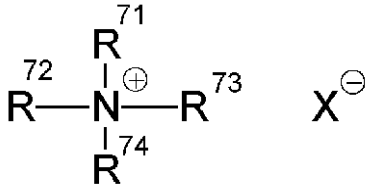
【訂正対象項目名】００１１

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００１１】

【化１】



（Ｉ）

（式中、R^{71}、R^{72}、R^{73}及びR^{74}のうち１つは、炭素原子数１６～３０の脂肪族基、又は、炭素原子数約３０までの芳香族基、アルコキシ基、ポリオキシアルキレン基、アルキルアミド基、ヒドロキシアルキル基、アリール基若しくはアルキルアリール基から選択され；残りのR^{71}、R^{72}、R^{73}及びR^{74}は独立して、炭素原子数１～約８の脂肪族基、又は、炭素原子数約８までの芳香族基、アルコキシ基、ポリオキシアルキレン基、アルキルアミド基、ヒドロキシアルキル基、アリール基若しくはアルキルアリール基から選択され；並びにX^-は、ハロゲン（例えば、塩化物、臭化物）ラジカル、アセテートラジカル、シトレートラジカル、ラクテートラジカル、グリコレートラジカル、ホスフェートラジカル、ニトレートラジカル、スルホネートラジカル、スルフェートラジカル、アルキルスルフェートラジカル及びアルキルスルホネートラジカルから選択されるもののような塩形成アニオンである）を有する約０．１重量％～約１０重量％のカチオン性界面活性剤；

（ｉｉ）約０．１重量％～約２０重量％の高融点脂肪化合物；及び

（ｉｉｉ）水性キャリア

を含むゲルマトリックス
を含み：
前記組成物が、
（ｃ）前記第１、第２及び第３シリコーンを混合して、前記シリコーン系を形成させる工程；及び
（ｄ）前記シリコーン系を前記ゲルマトリックスと混合する工程を含む方法によって調製される、ヘアコンディショニング組成物を対象とする。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４４】
（ゲルマトリックス）
本発明の組成物は、カチオン性界面活性剤、高融点脂肪化合物、及び水性キャリアから構成されるゲルマトリックスを含む。カチオン性界面活性剤は、高融点脂肪化合物及び水性キャリアと合わせて、様々なコンディショニング効果、とりわけ濡れた毛髪でのツルツルして滑らかな感触を与えるのに適したゲルマトリックスを提供する。上記ゲルマトリックスの提供という観点から、カチオン性界面活性剤及び高融点脂肪化合物は、上記コンディショニング効果、とりわけ濡れた毛髪でのツルツルして滑らかな感触を与えることを考えれば、カチオン性界面活性剤と高融点脂肪化合物とのモル比が好ましくは約１：１～約１：１０、より好ましくは約１：２～約１：６の範囲となるような濃度で含有される。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５０】
（高融点脂肪化合物）
本発明のヘアコンディショニング組成物は、高融点脂肪化合物を含む。本明細書に有用な高融点脂肪化合物は、２５℃以上の融点を有し、そして脂肪族アルコール類、脂肪酸類、脂肪族アルコール誘導体類、脂肪酸誘導体類及びこれらの混合物からなる群より選択される。当業者は、本明細書のこの項に開示されている化合物が場合によっては２以上の分類に属することができる（例えば、いくつかの脂肪族アルコール誘導体類が脂肪酸誘導体類として分類されることもあり得る）ことを理解している。しかしながら、示されている分類は、その特定の化合物に対する限定であるように意図するのではなく、分類及び命名法の便宜上そのようにしている。更に、当業者は、二重結合の数と位置、及び分枝の長さと位置によっては、特定の必要とされる炭素原子を有する特定の化合物が２５℃未満の融点を有することがあることを理解している。そのような低融点の化合物はこの項に含まれないものとする。高融点化合物の非限定的な例は、国際化粧品成分辞典（International Cosmetic Ingredient Dictionary）、第５版、１９９３年、及びＣＴＦＡ化粧品成分ハンドブック（Cosmetic Ingredient Handbook）、第２版、１９９２年に記載されている。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５１】
高融点脂肪化合物は、前記組成物中に、該組成物の約０．１重量％～約２０重量％、好ましくは約１重量％～約１０重量％、更により好ましくは約２重量％～約８重量％の濃度

で包含され得る。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５５】
高純度の単一化合物の高融点脂肪化合物類が好ましい。純粋なセチルアルコール、ステアリルアルコール及びベヘニルアルコールから成る群より選択される純粋な脂肪族アルコール類の単一化合物が極めて好ましい。本明細書で「純粋」とは、化合物が少なくとも約９０％、好ましくは少なくとも約９５％の純度を有することを意味する。高純度のこれら単一化合物は、消費者が前記組成物をすすぎ落とす時に、毛髪からの良好なすすぎやすさを提供する。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５６】
本明細書に有用な市販の高融点脂肪化合物類としては、新日本理化（Shin Nihon Rika）（日本、大阪（Osaka,Japan））から入手可能な商標名コノール（KONOL）シリーズ及びＮＯＦ（日本、東京（Tokyo,Japan））から入手可能な商標名ＮＡＡシリーズのセチルアルコール、ステアリルアルコール、及びベヘニルアルコール；和光（WAKO）（日本、大阪（Osaka,Japan））から入手可能な商標名１－ドコサノール（1-DOCOSANOL）の純粋なベヘニルアルコール、アクゾ（Akzo）（米国イリノイ州シカゴ（Chicago Illinois,USA））から入手可能な商標名ネオ－ファット（NEO-FAT）、ウィトコ（Witco Corp.）（米国オハイオ州ダブリン（Dublin Ohio,USA））から入手可能なヒストレーン（HYSTRENE）、及びヴェヴィ（Vevy）（イタリア、ジェノバ（Genova,Italy））から入手可能なダーマ（DERMA）のような種々の脂肪酸類が挙げられる。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００８１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００８１】
脱イオン水を８５℃に加熱する。水にカチオン性界面活性剤及び高融点脂肪化合物を混ぜ込む。前記構成成分が均質化して固体が観察されなくなるまで、水を約８５℃の温度で保持する。次に、混合物を約５５℃まで冷却し、この温度で保持してゲルマトリックスを形成する。別個に、第１、第２及び第３シリコーン化合物を均質化するまで混合することによってシリコーン系を調製する。シリコーン系をゲルマトリックスに添加する。ポリα－オレフィン系油類、ポリプロピレングルコール類、及び／又はポリソルベート類を包含する場合は、これらもゲルマトリックスに添加する。前記ゲルマトリックスは、この間、均質化を保証するために一定の攪拌を続けながら、約５０℃に保持する。均質化した後、これを室温まで冷却する。香料及び防腐剤のような他の追加的な構成成分を包含する場合、これらも攪拌しながら添加する。物質を分散するのに必要であれば、トリブレンダー及び／又はミルを各工程で使用することができる。